

タイムカード・タイムレコーダーの歴史

世界で初めてタイムレコーダーが生まれたのは、米国と言われており 1871 年にジョン・C・ウイルソンという人物が発明した。もちろん当時は、今のような専用のタイムカードではなく、紙に時刻を印刷するだけの簡単な仕組みでした。その後、米国では紙テープに時間を記録する方式のタイムレコーダー、タイムカードを使用する方式のタイムレコーダーへと進化していった。また英国では、軸で回る指示器によって時間と社員ナンバーを記録する方式などが次々と発明された。日本では 1931 年に、天野修一氏が電気式タイムレコーダーを発明した。このタイムレコーダーは、当時の総理大臣である浜口雄幸の国産品を奨励する活動もあり急速に普及していった。ちなみに英国では「Time Recorder」米国では「Time Clock」と呼ばれていた。

戦後、給与体系が複雑化してくると賃金計算に便利なタイムレコーダーの需要は益々高まり、時給設定や集計などを自動で行ってくれる集計型タイムレコーダーや、時計をデジタル化した電子タイムレコーダーなども登場した。20 世紀末にはウインドウズやパソコンの出現によりパソコンと連動し集計を行うタイムレコーダーシステムや指紋や静脈などで個人照合するタイムレコーダー、社員証や学生証を利用した入出管理もできるタイムレコーダーも登場した。そして 21 世紀になり、クラウドによるインターネットタイムレコーダー、フリーウェイタイムカードなど、機械式のタイムレコーダーからクラウドのタイムレコーダーへ進化し、いつでもどこでもタイムレコーダーを利用できるようになりつつある。

参考：時の記念日

文部省の提唱により 1920 年（大正 9 年）5 月 16 日から 6 月 30 日に『時の展覧会』が開かれた。この展覧会開催中に東京天文台及び生活改善同盟（会長は伊藤博邦公爵。大正九年一月に設立）により「時間を正確に守ること」という提唱を受け「時の記念日」を制定した。なぜ時の記念日が 6 月 10 日かというと天智天皇 10 年の 4 月 25 日に水時計（漏刻）が設置され、宮中に時がつげられるようになった（「時の奏」。太鼓や鐘で宮中に時間を知らせた）。この天智天皇の時の奏、10 年 4 月 25 日を太陽暦にすると 671 年の 6 月 10 日になるため。

参考：東京の午砲所（ごほうじょ）

午砲所は報時の空砲を撃っていた場所。東京市では明治の初めに皇居内の江戸城本丸跡庭園にて陸軍近衛師団により開始。その後、東京市が業務を引き継いだ。（1929年5月1日にサイレンに変更）

参考：漏刻祭（ろうこくさい）

近江神宮では毎年、時の記念日の6月10日に天智天皇をたたえて行われる。日本書紀に、日本で初の水時計が時を告げるとあり、太陽暦に換算して大正9年に制定されたもので、毎年、この日には神事のあと、時計店や時計メーカー、タイムレコーダーメーカーなどの関係者らが参列して、新しい時計を奉納する漏刻祭が営まれる。なお境内には、近江神宮時計博物館があり、水時計の漏刻台や和時計などから最新の時計を常設展示している。